



専務理事就任に当って

田畑 新太郎*

わが国鉄鋼業の発展のために日本鉄鋼協会の活動を更に飛躍させ、新しい開発に対する意欲と勇気を鉄鋼界に注ぎ込むべく、浅田前会長は、三島先生はじめ全理事の強力なる支持のもとにその構想を打出され、実現へと導かれました。そして全鉄鋼界の支援と期待のもとに現会長はじめ、全会員が一致して協会の新しい活動を展開すべく努力が続けられつつあります。私は浅田前会長が、かように新鮮なる構想を打出され、また全会員がその実現に全面的協力を誓われたその情熱に対し、心からの感動をおぼえるものであります。

省みればわが国鉄鋼業は米、ソ、独、3国に次いで、その生産規模は世界第4位に列し、その規模において、また、その技術水準において世界の注目を浴びるようになって参りました。しかもそれは、資源に恵まれて発展してきたのではなく、民族の力が結集して不可能を可能とする偉大なる努力が結晶となつたからであります。資源に全く恵まれないわが国にかくも大規模な鉄鋼業が、しかも短期間に実現したことは、たしかに世界の驚異であります。その不思議な力が何処に存在するか、それを確かめようと、列国が真剣にこの問題を取挙げるようになってきました。いま欧州に起つている日本ブームはこのようなことが原因になつているのでもあります。

わが国鉄鋼業が僅か50年の間にかくのごとき発展を遂げたことから考えても、その創生以来わが国鉄鋼業に身を投じた方々は、世界のいかなる国々の鉄鋼人よりも活動的であり、また能力も優れておつたものと思われまふ。また日本の産業界において鉄鋼界は家族的で温かい空気がいつも漂つていると人はいいます。楽しい時も苦しい時も、共に喜び、共に悲しむという、若い友情と情熱が、わが鉄鋼界には消えないで続いているといえます。この若々しい情熱の続く限り、わが国鉄鋼業は1日もその成長を止めることなく、輝しい発展の歴史をくり広げることでありましよう。

しかしこの情熱は人間として打込む仕事に張合があり、深い意義を感じればこそ、自然に湧き出てくるものであつて、わが国鉄鋼界はかような意味においては恵まれた条件を備えていたといえます。日本の鉄鋼業が驚異的發展を遂げつつあつた青年期においては、この条件を備えておつたのであります。ただかような好条件が無限に続くとは考えられません。むしろ今後の鉄鋼界は厳しい条件にぶつかるものと覚悟しなければならぬ時代となつています。

第2次大戦終了後、英国は世界における多くの資産と権益を失ない、また、世界の指導国としての地位を米国に譲り、国民の志気が全く衰えた時期があります。この時、英国の為政者が国民の志気を鼓舞するために打つた政策は科学技術の振興でありました。科学技術の世界には、未だ開拓されていない無限の宝庫があり、それを英国の科学者、技術者によつて開発し、国威を揚げ、国民に自信を取戻させようというものであります。この着想はどん底にあつた英国国民に希望を与え、今日の英国の航空機工業や化学工業の発展の基礎となつています。

しかし英国はこの大政策を推進するに当り、教育機関、研究機関、産業を一貫し、その研究体制の近代化を断行致しております。英国のこの新しい研究体制は極めて革新的なものであり、この時研究機関

* 本会専務理事

の協力体制が纏つたのでありまして、英国のあらゆる職場に在る研究員が、自己の職務の意義を明確に認識するにいたつたと思われます。

また、歐洲の各国も研究体制の近代化を続々と実行したため、全体として極めてコーパーレティブな組織が確立されて参りました。かようにして、學術を通じ信頼と友情に充ちた国際間の関係も進んでおります。科学の世界、技術の世界に活動する人々が互に協力体制を守り、その仕事を通じ人間として尊敬と信頼が新しい社会において結ばれているとすれば、それはなんと素晴らしいことではありませんか。

一方わが国の鉄鋼界の発展が注目され、これを実現した人々と親しく交わろうとする動きが、この歐洲に現われて参りました。来年3月から4月に亘り、英国鉄鋼協会は、英国鉄鋼業の代表的エキスパートを網羅し、わが国鉄鋼業および学界に親善のミッションを派遣することになりました。そして4月の日本鉄鋼協会の大会の会場において、日英両協会の姉妹関係を結ばんとするプロポーズが行なわれます。わが国としてはかような姉妹関係を結ぶのはこれが初めてであります。これを契機とし、わが協会は次々と各国の同様の学界と結ばれて行くものと想われます。

私は経済成長率が落着いている歐洲諸国において、各人が自己の責務に対し誇を感じ、情熱を失なわず堂々と生きている事実をあらためて研究する必要があると思つています。

今日わが国鉄鋼業は生産規模があまりにも急速に拡大したあおりを受けて各方面に深刻な問題を投じております。場合によつては、ここ数年間今日迄のような華々しい設備拡充の仕事が、わが鉄鋼界から消えて行くかも知れません。そしてこの方面に全力を傾倒しておられた方々が、もし空虚な感じを持たれるようことがありとすれば、それは真に不幸なことであります。われわれは若き情熱に充ちたわが鉄鋼業を一日のたゆみも無く活動的に続けて行かねばなりません。ここにおいて想起されるのは英国の為政者が戦後科学技術の振興に政策の生命をかけた事実であります。たちまちにして世界第4位の大鉄鋼国になつたわが国は現在活動的な世界に誇るべき鉄鋼の技術者を多量に擁していると思われます。この高いポテンシャルを有効に利用し、鉄鋼技術の開発に向けるとすれば、思わざる革新的な鉄鋼技術が日本に次々と生まれ、わが国鉄鋼業の国際的地位を益々不動のものにするものと信じます。

幸にして英明なるわが鉄鋼界の先輩は日本鉄鋼協会の大拡充を国際的な見地から断行されました。日本のあらゆる産業に率先し、鉄鋼界は近代的な研究体制の推進に邁進しようとしております。昭和40年は日本鉄鋼協会が故俵国一先生など諸先輩の大構想のもとに発足して丁度50周年を迎えます。この50周年の大会を世界の友を集めて盛大に開催できるよう祈つて已みません。不肖私は三島先生を会長に仰ぎ、協会の運営に専念致すことになりました。身命を賭して、皆様のご期待に添いたいと存ずる次第であります。よろしくご指導、ご鞭撻賜わらんことを切にお願い申す次第であります。